最新鋭医療機器を揃えた北海道大野記念病院を開院

地域に足りない医療を

社会医療法人 孝仁会理事長 齋藤 孝次さん

昨年10月、札幌の宮の沢に最新鋭の医療機器を備え、最先端の医療を提供する北海道大野記念病院が開院した。運営するのは釧路に本拠を置く社会医療法人孝仁会。釧路孝仁会記念病院を基幹病院として救急医療、へき地医療に力を入れているほか、高齢者福祉施設などを広範に展開している。齋藤孝次理事長に孝仁会の運営方針などについて訊いた。

社会医療法人 孝仁会
齋藤 孝次理事長

救急・へき地で道内4番目「社会医療法人」を取得

「社会医療法人」という法人類型は比較的新しい制度で、2006年に改正された医療法で制定され、08年から認定が始まったもの。赤字体質が慢性化している自治体病院に代わり、公益性の高い医療を行う医療法人として、地域医療の主役を担うことを期待されている。公益性の高い医療とは、救急医療（救急医療含む）、へき地医療、災害医療、精神救急医療など。これらの公共性の高い医療を担うことができる医療法人を「社会医療法人」として認可し、国や道・市町村と並ぶ「地域医療支援病院」の開設主体として位置付けている。公益性の高い医療に伴うロスをカバーできるようにするため、社会福祉事業や収益事業が認められるほか、自立型経営を持続できるよう社会医療法人債（公募債）の発行が可能、役員給与制限、自己資本比率、理事長要件などが緩和されている。

孝仁会は09年3月、道内4番目の社会医療法人認定を取得。具体的には、釧路孝仁会記念病院が救急医療、北海道大野記念病院と知床らうす国民健康保険診療所、札幌第一病院がへき地医療で認定されている。

齋藤孝次理事長は、

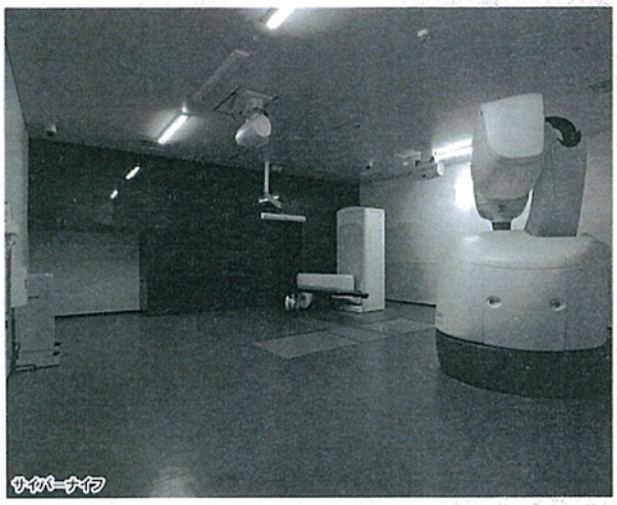
「社会医療法人の認可を取得したということは、準公的な医療機関として国に認められたということ。社会的責任も大きくなります」

北海道大野記念病院

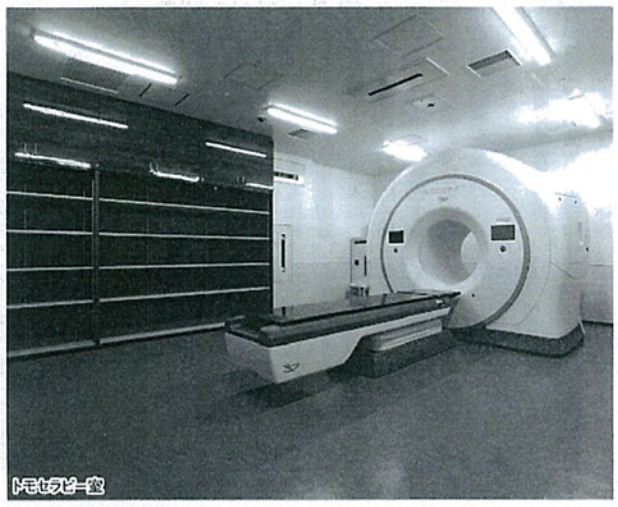
という。

釧路孝仁会記念病院は救急医療で社会医療法人認可を受け、365日24時間救急を受け入れている。社会医療法人の認可には、診療部門、専用病床、医療体制や業務実績などについて細かな基準が定められている。「救急患者に対して医療を提供する体制を常に確保していること」もその一つ。他に、救急搬送年間750件以上などの基準がある。それらをすべてクリアした医療機関だけが社会医療法人の認可を取得できる。

孝仁会が社会医療法人を取得したのは、「地域に不足している医療を提供する」という施設展開の方針がある。



サイバーナイフ



トモセラピー室

「地域に足りない医療を孝仁会が提供することで地域に貢献できると考えています。1989年、最初に釧路脳神経外科病院を開設した当時、根釧地域の脳神経外科は、釧路市立病院と釧路労災病院にそれぞれ40数床ありましたが、まだまだ不足していました。近隣の病院が患者を転院させようとしても手術が必要な患者以外はほとんど受け入れてもらえなかったようです。専門外の脳疾患の患者さんを診なければならず、医療設備や専門知識も十分ではなく、苦労されていたんです。釧路脳神経外科病院を開設したことで、近隣の病院からずいぶん感謝されました。その後、2000年には中標津脳神経外科を開設したことで、退院した患者さんが外来で釧路まで通う必要がなくなり、地元で診療を受けられるようにしました」（齋藤理事長）

地域住民のニーズに応えるらうす診療所

「地域に不足している医療を提供する」という孝仁会の方針が実を結んだのが知床らうす国民健康保険診療所（以下、らうす診療所）だ。12年に孝仁会が指定管理者として運営に当たるまで、らうす診療所は存続の危機に直面していた。医師・看護師が見つからない。夜間診療も救急医療もできず、透析患者は週3度、中標津まで通わなければならなかった。

「当時の鵜紀美夫町長から熱心に頼まれ、一度はお断りしたのですが、粘り強く説得されました。引き受けるに当たり、羅臼町民との懇談会を開き、どのような医療が望ましいかを話し合いました」

医療従事者が働きやすい環境を整えてもらう一方、孝仁会からは地域のニーズに沿うクリニックを提案。整形や脳神経外科、循環器科を含むあらゆる専門外来を行い、透析も地元で行える。二次救急患者も24時間引き受ける。入院患者に関しては釧路や中標津に送り、看取りは在宅が基本となるが、どうしても在宅で看取れない場合は受け入れる。こうした医療体制を整えるため、医師・看護師・放射線技師・検査技師・臨床工学技士（ME）・リハビリ技師・事務員などを派遣する。こうした提案を行い、らうす診療所の特徴を示した上で指定管理者を引き受けた。地元住民からは喜ばれ、受け入れられてはいるが、羅臼町の補助を受けても過去5年間赤字続き。6年目の今年は「なんとか黒字にしたい」とこころだ。

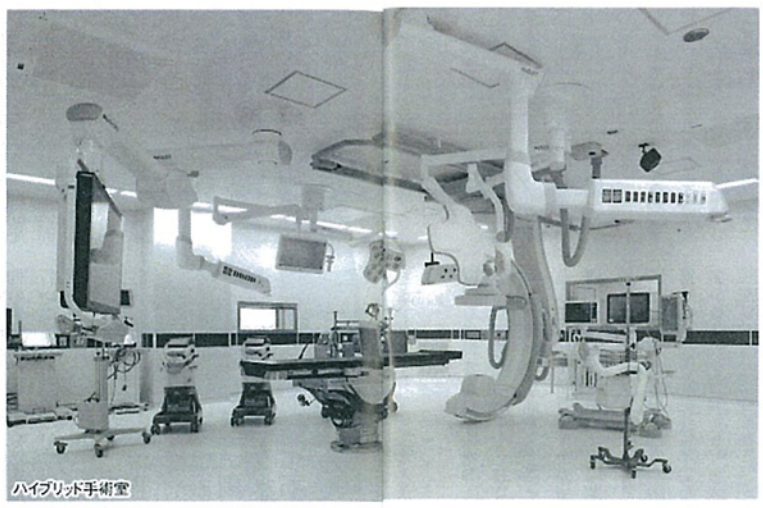
このほか、留萌では地域で脳神経外科の診療ができるようにしてほしいという依頼があって留萌セントラルクリニックを06年に開設。16年には院長が不在となった町立病院への医師派遣を頼まれ応じたケースもある。だが、これらは本来、民間の医療法人が引き受けなければならない事業ではなく、道や大学病院などの公的医療機関が負うべきだろう。

昨年10月、札幌市西区宮の沢に北海道大野記念病院を開設した。孝仁会は釧路孝仁会記念病院を基幹病院として道東地区で脳神経外科、消化器科、循環器・心臓血管外科、運動器を中心とした高度急性期医療、回復期リハビリテーションなどを中心に展開。介護施設なども経営してきた。だが、今後の道東地区の人口減少や次世代への継承を考えた場合、医師をはじめとする医療従事者の確保がますます困難になる懸念があった。人口の集中する札幌に基幹病院を開設し、医療従事者を確保することが法人経営の安定のために必要な課題として浮上した。

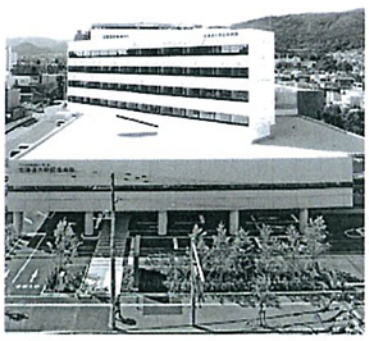
新病院開設に当たり目指したのは、脳・心臓・癌・運動器を中心とした急性期医療と、脳・心臓・癌ドックを中心とした高度健診事業の展開だ。釧路孝仁会記念病院では、脳・心臓にはフル対応しているが、癌の放射線治療は行っていなかった。札幌では放射線治療を含め、道内にはない最新鋭の医療機器を揃え、最先端の医療を提供することを目指した。14年に碩心会との合併を果たす。日本初の社会医療法人同士の合併となった循環器専門病院である碩心会との合併は、目指す医療への大きな一歩となった。

最先端の医療と機器で患者負担の少ない医療

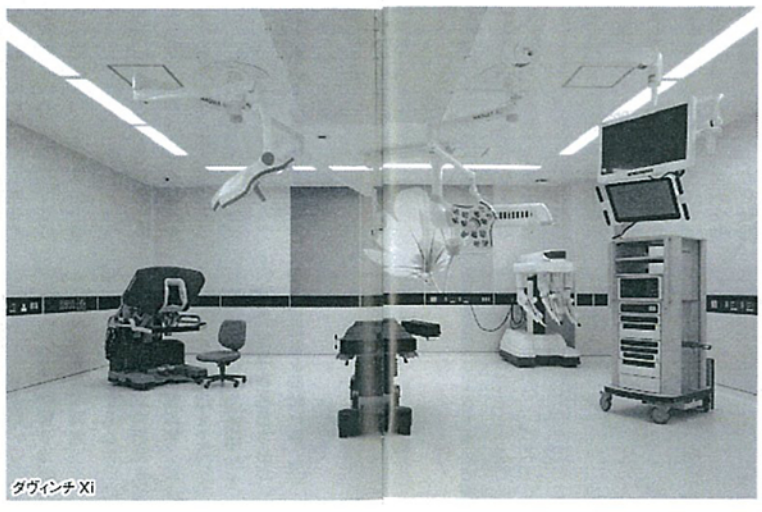
北海道大野記念病院では、最先端の医療、患者に優しい低侵襲の医療を実現するため、数々の最先端医療機器を導入している。欧米では癌患者の6割が放射線治療を受けると言われているが、日本では2割にとどまっている。だが、近年のコンピュータ技術の進歩により治療機器がすさまじい勢いで発展しており、根治治療・緩和療法ともに新たな進展が見られるという。そうした最先端の治療を道民に提供する。その一つがトモセラピー（Tomotherapy）。従来のIMRT（強度変調放射線治療）に比べ、100分1の細かいビームにより患部に正確かつ集中的に照射することができ、同時に何ヵ所も治療することができる。また、サイバーナイフ（Cyberknife）M6はロボティック技術と連続画像誘導技術を用い、治療中に動く腫瘍を追尾する機能を持つ。患者を寝台に固定したままでも治療を中断したり位置合わせをやり直す必要がなく、息を止める必要もない。一度に全身の治療が可能だ。さらに正常な組織と癌組織の間にスペーサーを入れて正常細胞を守りつつ高線量の照射が可能になった。これによりこれまで1ヵ月以上かかった放射線治療が半分以下の期間で終えることができるようになった。前立腺癌、乳癌、食道癌など切らずに治せる癌にはこうした最先端の放射線治療が有効で、患者の負担を大幅に減らすことができる。



ハイブリッド手術室



心臓疾患についても切らずに治す低侵襲治療をモットーとしている。血管造影と同時に手術もできるIVC-CTを導入したハイブリッド手術室を中心に、性能の高いデュアルソースCTなどを導入。心筋梗塞で血管が詰まった場合、患部をバルーンで拡張した後、金属のステントと呼ばれるパイプを挿入する。ところが、再狭窄といってステント内部が再び詰まる場合がある。従来のCTでは、一旦ステントを入れるとその内部を確認することができなかったがデュアルソースCTはステント内部も見ることができる。これらの機器を駆使して大動脈疾患のステント留置、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を行っている。このほか、オフポンプ・バイパス術、僧帽弁に対する小切開手術などを取り入れ、さらには手術支援ロボットのダヴィンチXiの応用にも挑戦している。



ダヴィンチXi

脳については、血管内手術の進歩に対応し、24時間急性期血栓回収術が可能な体制を構築。脳動脈瘤、頸部頸動脈狭窄症に対する血管内手術を行っている。脳神経外科手術室には3T術中MRIを装備して術中ナビゲーション、術中ICG造影、各種モニターなどを駆使して質の高い手術を実現している。

運動器では、O-armイメージングシステムを導入し、術中画像診断、ナビゲーションに活用している。脊椎損傷センターでは24時間救急に対応。札幌医大の再生医療と強力し、急性期からリハビリテーションを行う。消化器においても腹腔鏡を主に、単穴腹腔鏡手術を取り入れたほか、前述のダヴィンチXiを使ったロボット手術に挑んでいる。

このほか、ICU（集中治療室）はすべて個室で8室。患者のプライバシーを確保すると同時に、感染に対する環境を整備している。

これらの医療機器はいずれも最新鋭のものばかり。北海道初、札幌初の機器も多い。これは孝仁会の「地域に不足している医療を提供する」という方針に基いている。

齋藤理事長は、

「医療技術や医療機器は日進月歩です。世界的に医療の流れは、切らずに治す、あるいは低侵襲の手術のように患者負担が少なくする方向にあります。最新の医療機器を揃え、最先端の医療を提供することにより、札幌だけでなく道民全体に貢献できると思います」

と語っている。

●社会医療法人孝仁会
釧路市愛国191番地212
（釧路孝仁会記念病院内）
TEL 0154・39・1222
URL（http://www.kojinkai.or.jp）